

園長のつぶやき ③

今回は、「ステキ」を伸ばす関わり方の一つの「ほめ方」について考えてみたいと思います。

ほめ方の7つのポイント

- ① 当たり前のことをほめる。 ② 同じことを何回もほめる。 ③ 複数の人が同じことをほめる。
- ④ そこそこのほめ方をする。 ⑤ 1対1でほめる。 ⑥ ほめ逃げする。
- ⑦ やろうとしていることをほめる。



① 当たり前のことをほめる。 ② 同じことを何回もほめる。

「よく園に来たねえ」「ごはん食べてえらいねえ」「座っていてすごいねえ」など、当たり前のことをただ伝えればOKです。目に見えたことに「えらいねえ」とか「すごいねえ」を付けるだけ。特に、感情を込めなくても、ただ、伝えればいいです。そして、それを③「複数の人が同じことをほめる」と効果は倍増です。伝えられているお子さんも「自分ってそこがいいところなんだ」と思うようになってきます。自分のことは見えにくいので、自分の良さも見えていません。だから、周りから注入していく必要があるのです。

④ そこそこのほめ方をする。

一番や100点という言葉は、とてもいいパワーワードですが、白か黒かで考えがちなタイプには危険ワードです。とすれば、あえて、「そこそこのほめ方」をします。日本語にはぼんやりながらもほめたい言葉がたくさんあります。「けっこう」「なかなか」「まずまず」を付けるといいぼんやりになります。「けっこうすごいね」「まずまずいいとこいってるよ」などです。



⑤ 1対1でほめる。

⑥ ほめ逃げする。

1対1でこっそりほめられる方が、他者の前での振る舞いという余計なことを考える必要がありません。実にシンプルな状況をつくることができます。ほめる方にしても、周りから「自分だってそのくらいがんばっているのに、どうしてあの子だけほめるの」などと思われる心配することなく、ほめたいことをほめることができます。



ほめられたときのリアクションが下手な子がいます。反応が上手じゃないのであれば、反応させなければいいのです。つまり「ほめ逃げ」ということ。去り際にほめていなくなることで、ほめられた印象をくっきり残すことができます。

⑦ やろうとしていることをほめる。以前、離席を繰り返す子がいました。その子がちらっと椅子を見た瞬間を見逃さず。「今、椅子に座ろうとしたね」と言葉を掛けると、仕方ないなあという表情をして、椅子に座ったではありませんか。結果だけでなく、意欲、態度をほめるのです。

参考文献 発達が気になる子のステキを伸ばす「ことばかけ」 加藤 潔